

- 職業奉仕月間に -

奉仕こそわがつとめ

国際ロータリー第2650地区
2001～2002年度ガバナー

西村 二郎



職業奉仕はロータリー綱領2項に集約されていますが、その奉仕の意味がとらえがたい部門とされています。この文章を繰り返し読みますと、理解できたかのように感じますが、どうすればよいのかとなれば難しくなってきます。

他の奉仕部門には目的がありますが、職業奉仕は職業が目的でなく、奉仕への手段なのです。そこで、とらえがたいものとして受け止められるのではないのでしょうか。

ものの考え方、つまり、思考には左脳が論理思考を、右脳がイメージ思考の機能をもっています。ロータリーの文献の多くは左脳の論理思考で表現されているので読みにくく、このことが職業奉仕を一層難しい部門にしているのではないのでしょうか。しかし根気よく、できるだけ多くの文献をお読みになればロータリーの歩みを知って、その結果、職業奉仕を学び、必ず活動方針についてなにか具体的な行動に気づかれることと思います。手続要覧1998年度版75頁～78頁、国際ロータリー発刊「奉仕こそわがつとめ」を今一度お読みください。

ロータリーは、他の人々に対しての思いやりが奉仕の基盤であり、職業奉仕こそロータリーの挑戦であって、ロータリーの主たる存在意義がここにあるとも言われています。毎月発刊されている「ロータリーの友」をお読みになることで、豊かなロータリーの知識を得て、職業奉仕を自分の人生哲学の中に位置づけられることと思います。

職業は、人生と共にこの世から借りている大切なものです。だから、この職業をこの世のために役立たさなければなりません。仏陀は「人は己れのために欲する福善を他人のために求むべきものなり」、孔子は「汝の欲せざる所を他人に施すなかれ」と、それぞれの言葉は異なっても、奉仕の精神は一つです。

ロータリアンがロータリーの綱領の実践に努めていると自負していても、自我意識が働き、Service above selfの境地に達するよう努めなければアンバランスであり、ロータリーの職業観に徹しているとは言えません。

このアンバランスになった平行棒がバランスを保った時こそ、ロータリーの綱領に向っての実践というべきでしょう。ロータリーの実践は、ロータリーの綱領がService above selfをもってなされることが肝要であります。

1932年ハーバート・テイラーが「四つのテスト」によって会社の再建に成功し、1943年1月の理事会がこれを採択可決しました。

「四つのテスト」は今日では、ロータリーの四大奉仕部門のすべてにおいて重要な要素となっていますが、当初は職業奉仕プログラムに組み込まれていました。「四つのテスト」を実践することは大変難しいですが、われわれ一人一人の行動に対する尺度と考えれば決して難しいものではありません。自己の行動を評価し、自己の考え方と行動が、今までよりも一層奉仕の理想に向っての情熱を引き出してくれると思います。

職業奉仕は、自分の職業は他人のためにあることを理解して、みんなのためになるように、相手の身になって良い仕事を提供することです。奉仕とは、ただで物を他人に提供したり、物を安くすることではなく、「決して無理をしないで、社会に貢献することによって、自己の喜びとなることである」と思っています。

人間が生きて行くには利益を得なければなりません。利益は栄養です。だからこそ摂らなければなりません。しかし摂り過ぎると栄養過多となり、糖尿病・心臓病・高血圧症や体の中にコレステロールが蓄積して動脈硬化や肝臓病を、また自分自身の体重を支えきれずに膝の関節などに異常を引き起こしてきます。奉仕優先での利益が求められる所以です。

職業奉仕は地道な奉仕活動ですが、この月間だけにとどまらずに、みんなが手に手をつないで、ロータリーを楽しみながら一年間を通じて活発に意欲的に取り組んで戴ければ、親睦で友情を育て、奉仕の花を咲かせることとなり、職業奉仕月間としての在り方が意義づけられます。職業奉仕を難しく考えますと理論倒れする可能性があります。私たちロータリアンはいつでも、どこでも奉仕の機会に恵まれています。職業奉仕活動を難しいものとしないうで、実践して戴きますよう期待致します。

- 米山月間に -

米山翁の信念を胸に

国際ロータリー第2650地区
2001～2002年度ガバナー

西村 二郎

米山梅吉翁は「人々にしてほしいとあなたが望むことを人々にもそのようにせよ」との信念をもって生涯を過ごされました。日本のロータリーの創設者であります。東京ロータリークラブ初代会長としての功績を記念して、1953年2月に東京クラブの国際奉仕の一環として米山基金が発足しました。1958年にはロータリー米山奨学会と改正され、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されて現在に至っています。

米山奨学会が設立されて以来1999年までに、その目的を達成した奨学生の累計は93カ国9553名であり、現在年間1000名を受け入れています。激しく変化する内外の情勢にもかかわらず、活動するロータリアンの姿勢は、広く国際社会に貢献する誇りと喜びであります。

財団法人ロータリー米山記念奨学会は、単に奨学金支給のみでなく、奨学生一人一人を受け入れるクラブとカウンセラーが精神的ケアをすることに優れた特色があります。クラブは地区が選定し、奨学生は毎月クラブ例会に招かれ、ロータリアンとの交流からお互いの国の風習や文化を学び、国際理解と親善に協力しています。またクラブ会長から指名を受けたカウンセラーが彼らの心の支えとなり、よき相談相手として感謝されています。

米山梅吉翁の三男桂三氏のご尊父について、「アメリカの教育から『いかに他人を楽しませるか』を身につけ、そして『他人の楽しむのを見ているほど幸せなことはない』という人生の考えをもっていた。だから、奉仕の精神に支えられていたロータリークラブの活動に心をひかれ、日本に紹介したので決して偶然ではありません。真心をこめて行動し、そのことが喜びであり、お返しを求める気持ちは少しもなく、心からお互いに幸せであることだけを願っていた」と述べておられます。

財団法人ロータリー米山記念奨学会の趣旨にご理解を戴き、貢献をお願い致します。
そのことが Mankind is our business なのであります。

優秀クラブ表彰

次の課題の内1つ優秀な成績を修められたとき、クラブ、または会員を2002年4月の地区大会において表彰いたします。

2002年3月30日(金)必着で、ガバナー事務所まで報告してください。

優秀 クラブ表彰

会員増強(4つの業績をすべて記入のこと)

各クラブは毎月平均新会員1名、純増5名の増強をする。
最低3名のクラブ会員が、地区会員増強セミナーに参加する。

クラブ会員増強作戦を展開実行するために、クラブ協議会ならびに会合を実施する。

クラブに、会員教育実施要領プログラムを導入する(出版物414-JAを参照のこと)

ロータリーに対する公共的イメージ(6つの業績の中5つを記入のこと)

クラブ協議会および会合を実施し、地域社会内でロータリーを推進する計画を導入する。

クラブ会員による卓越した職業奉仕の達成を認証するプログラムを導入する。

クラブ会員にロータリーの襟章を毎日着用するよう奨励するプログラムを導入する。

地域社会で、ロータリーの徽章を適切に示す。

最低6回、機会を捉えてロータリー・クラブの行事を主要報道機関に報道してもらう。

新聞、ラジオ、テレビ等に情報「スポット」や「広告」を入れる。

ロータリー教育と研修(5つの業績をすべて記入のこと)

クラブ会長、幹事、会計、および4名のクラブ理事(またはその代理)は、2001年地区協議会に参加しなけれ

ばならない。

クラブ会長、幹事、会計(またはその代理)は、地区大会に参加/登録しなければならない。

クラブ会員の15パーセントが、地区大会に参加/登録しなければならない。

新クラブ会員の50パーセントが、地区大会に参加/登録しなければならない。

公式に入会式を通して、クラブにすべての新会員を歓迎する。

クラブの発展と改善(8つの業績の中6つを記入のこと)

定例のクラブ通信を作成する。

現クラブ名簿を維持する。

質の高い週例会プログラムを実施する。

ロータリー・プログラムまたはプロジェクトに関する会合を6回実施する。

会員のクラブ例会早退を防止する対策を導入する。

最低1つ新しい社会奉仕プロジェクトをスポンサーする/に参加する。(必ず記入のこと)

最低1つ新しい社会奉仕またはポリオ・プラス・パートナー・プロジェクトをスポンサーする/に参加する。(必ず記入のこと)

ロータリー・ボランティア、青少年交換学生、ロータリー財団奨学生、研究グループ交換チーム・メンバーをホスト/スポンサーする。

ロータリーの存在意義

地区職業奉仕委員会 委員長

黒川 正夫

(京都西南RC)



当節の長期不況、金融機関や大企業の経営破綻、国際的景気低迷と職業をとりまく経済情勢は逆境にあります。自信を失ったかにも見える大人たちの陰で、進む子供たちの心の病や犯罪など、社会のさまざまな分野で、ゆがみが露呈してきています。

行政改革、金融改革、教育改革、そして聖域なき構造改革と、改革のかけ声は揚がっていますが、新世紀を迎えての、希望に満ちた社会の活力といった明るさはなかなかみえてこず、むしろ不安が広がっています。

このような時であるからこそ、私たちロータリーの存在意義があり、奉仕の理想に象徴されるロータリー哲学を学び、勇躍実践活用する必要に迫られているのではないのでしょうか。

リチャード D. キング R.I. 会長は、ロータリアンの人生は真実重要な人生、Mankind is Our Businessとのテーマを掲げ、他人に奉仕し、社会の成長と繁栄に、力を尽くすよう要請しています。そして、ロータリアンたる者誰でも、人道的な働きをせずに生涯を送ったことを後悔しながら人生を終えることがないようにと呼びかけております。

さて、ロータリアンにとって「職業奉仕」とは、毎日の生き方そのものであるといえましょう。職業分類に基づいて、原則一業一人制で入会し、「ロータリーの綱領」と「四つのテスト」の額をいただき、先輩ロータリアンから奉仕の理念について教えられ、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕へと広がっていく奉仕部門の区別などを知りました。

クラブ奉仕は、他の奉仕の土壌ともなるべきクラブの維持活性化のためのもの、社会奉仕と青少年部門は、地域社会に対する、或は次代を担う新世代への奉仕、国際奉仕は、国際理解と世界の平和を推進し、地球上から不幸を軽減するための努力と、いずれも奉仕の対象が明確です。ところが、職業奉仕は、自分が従事する職業の道徳的水準を高め、その職業の尊厳を維持して、各自が自己の職業を通じて、社会の福祉安寧と人々の幸福増進に貢献することという、奉仕の心構えという理念的なものであります。そして、職業奉仕はロータリーの最も重要な本質を表す特徴的な奉仕部門として私たちの髓にしみ込んできました。

ところが、1989年に開かれた R.I. 職業奉仕委員会は、これまでの考え方に加えて、会員個人の問題にとどまらず、クラブの問題でもあることを強く表明し、職業奉仕に新しい方向性を打ち出しました。ロータリーは、今や地域社会のためにクラブ会員がその職業上の能力をフルに活用して、プロジェクトを実施促進、発展させる責務を負ってきたという認識に基づくものです。

近年、社会の変貌、職業上の必要技能の変化は、これまでの概念だけでは対応できず、地域に希望と安定をもたらすためには、職業訓練や就職相談、さらに職業に関する情報提供等、クラブとして地域に援助の手をさしのべることを提起してきたのです。

以上、職業奉仕についての概要を述べさせていただきましたが、私たちは、奉仕の理念が職業と人生に幸福をもたらす真の基礎であることを実証し、ロータリアン以外の人々にも、奉仕の理想を受け容れてもらえるよう、個人としても、クラブとしても、努力しようではありませんか。

- 10月は職業奉仕・米山月間 -

待望の学友会誕生 米山奨学事業を育てよう

地区米山奨学委員会 委員長 **大島 正光**
(高島RC)



待望の2650地区学友会が、7月8日ホテルグランヴィア京都で発会式が行われ誕生しました。登録会員数は163名です。学友(元奨学生)が、奨学期間終了後ロータリーの奉仕活動に参加する機会を得られないままでしたら、ロータリーで学んだ奉仕の心が育つかどうか!そこで魅力ある学友の集いを通じて、新しい友情と親睦のもとに、ロータリー精神を引続き学び、国際交流の一端を担うことができることはすばら

しいことです。短い奨学生生活では、あまり知り得ない知識や日本文化について、現役の奨学生ともども是非学びとっていただきたいと思います。

大学推薦制度が全国スタート

2002年度米山奨学募集から、全国35のロータリー地区にて大学推薦制度を施行します。大学推薦制度は地区選考委員会が大学を指定し、被推薦者数を振り分け、指定校から米山奨学生としてふさわしい学生を推薦してもらう制度で、被推薦者数は各地区の新規採用数の2倍を目安として上限を3倍までとします。また指定校に被推薦者数を依頼する場合「地区選考委員会から大学担当者への被推薦基準」を提示し学内選考に活用してもらう。大学から推薦された留学生をさらに地区で選考し合否を決定するシステムであるため、大学担当者の協力を仰ぎながらも、ロータリーの主体性が生かされる制度です。

寄付金について

日頃は米山寄付にご協力賜り厚くお礼申し上げます。米山奨学事業は善意によるロータリアンの寄付によって支えられていることは言うまでもありません。しかし寄付の大半は特別寄付によるところが大きく、各クラブにより1人当りの寄付額が、¥20,000に達していないクラブが全体の38%あります。地区目標は、1人当り¥24,000です。各クラブに於て、今一度目標に向って如何にすれば達成できるか、検討賜りご協力お願い致します。平均以下のクラブについては、米山功労者、準功労者のご協力いただく以外の方につき、月2,000円運動をお願いしたいと考えます。3ヶ月毎にまとめてご送金いただく方法です。各クラブに於て一番好い方法を選択しご協力をお願い致します。

M2000運動で目標達成を!

ウェブでロータリーを推進

地区インターネット委員会 委員長 **志村 修**
(大津東RC)



今や、世界中で個人や団体がウェブを利用しており、ロータリーも例外ではありません。ロータリー・グループにとって、ウェブサイトは広報を推進し、会員への連絡手段を提供し、より広い社会との橋渡しをする優れた手段です。インターネット委員会では、R.I.の推奨するウェブサイトを用いた効果的な奉仕活動の方法を研究し、地区のウェブサイトを通して、クラブやロータリアンに提供していきます。

最新のR.I.のウェブサイトに関するスタンスは、R.I.の事務総長によりますと「R.I.はニーズの変化に対応して、2001年カタログに掲載されている出版物の一部を、ウェブのみで提供するようにしました。会員からの要請に応じて、会員がオンラインでロータリー業務の多くをこなすことができるよう、アプリケーションがいくつか開発されました。2001-02年度の計画では、ロータリアンは財団への寄付、個人の寄付記録のチェック、R.I.会議への登録をすべてオンラインで行うことができ、さらに、クラブ会長はオンラインでクラブ会費を支払い、クラブと会員のデータを閲覧・編集することができるようになる予定です。ロータリアンの皆さん、ウェブサイトを頻繁に訪れ、そこに掲載された最新情報を是非インターネットへのアクセスのない同僚と共有してください。」と語っておられます。

R.I.のウェブは今まで英語だけで提供されてきましたが、この度日本語による公式ウェブサイトRJW（ロータリー・ジャパンウェブ）がR.I.公認のウェブサイトとして立ち上がりました。RJWの田中委員長は、「R.I.から伝達される全ての情報は、ウェブを介して発信する。従って情報を得ようとする者は、自ら積極的にウェブ上の情報を探すべきである。R.I.ウェブサイトに掲載された情報は、その時点で公開された情報として、直ちに翻訳作業を経て、RJWに掲載するようにしています。」と述べられております。

地区インターネット委員会の責務として、各クラブに対してRJWや2650地区のウェブサイトを周知することが重要であると思えます。

本年度のインターネット委員会の具体的な活動内容として、

1. 地区のウェブサイトを2001年バージョンに新装。このウェブサイトより、R.I.やRJW、地区の最新情報を発信する。
2. 今後のペーパーレス化に対応するため、ウェブ上にダウンロードセンターを設け、地区の会議報告書や、委員会の会議資料などを置き、閲覧、印刷できるようにする。
3. 電子メールによる情報の交換が標準となる時代を見据え、地区内委員会の委員長に、恒久的な電子メールアドレスを割り当てることにする。
4. クラブからのお知らせや、卓話情報を掲載するコーナーを設ける。
5. 本年度リチャード・キングR.I.会長は、公共的イメージ高揚のためにインターネットを活用し、ロータリアンの企業と地区のウェブサイトを繋いでおくように要請されております。「ロータリアンウェブリンク」として相互リンクをできるようにする。
6. クラブが新しくウェブサイトを作成するのを支援するため、HPガイドラインや、テンプレート、素材集を準備する。

以上、これからのロータリーの情報伝達の中心が、ウェブサイトと電子メールであることは間違いありません。インターネット委員会ではR.I.の最新情報を迅速・正確に発信していきますので、受信側がしっかりとアンテナを伸ばして頂くことを期待しております。

座談会

会員増強・退会防止・拡大 三委員長を囲んで

R.I.第2650地区ガバナー 西村 二郎
 地区会員増強委員長 大久保 昇 (京都西南RC)
 地区退会防止委員長 平井 義久 (京都洛中RC)
 地区拡大委員長 吾郷 光夫 (生駒RC)
 司会地区幹事長 岩佐 孝雄 (京都南RC)

岩佐氏 西村ガバナーを囲みまして会員増強・退会防止・拡大の3委員長さん方と、座談会を企画しました。意義あるものになることと確信しております。よろしく願います。

西村ガバナー 今年度R.I.の重点目標の一つに、増強・退会・拡大があります。会員増強というものは全ての会員の責務ですが、ロータリアンの70%がその責務を果たしていないと言われて



います。ロータリーの単位はクラブである。クラブの財産である会員、その会員数がこれでいいと言うのではなく、増強することはクラブを強くすることにあり、会員が多ければ多い程、地域社会に、国際社会に貢献できるのではないかと考えています。会員増強に励んでいただきたいと思えます。

大久保氏 ガバナーが会員増強に取組まれる意欲をひしひしと感ずります。私としては、2004年に大阪で開催されるR.I.国際大会の成功を目指すとともに、2005年のR.I.創立100周年の目標「会員150万人達成」を目指して、今年度の会員増強活動に取組みたいと思っています。

そこで当地区の会員増減状況を、1998年の会員数を起点にシミュレーションしてみますと、2007年の会員数は5800人ぐらいに減少し、2010年には3500人程度まで減少することが予測されました。まさに右肩下がり傾向です。

予測とは言え、たいへん厳しい数字です。これに対する危機感を地区の全ロータリアンが共有してこそ、会員増強の具体的方策を考えだすことができると思えます。

「会員ひとりが、ひとりの新会員を推薦」という地区の方針も危機感から生まれたものです。時代に対応した会員増強の方策として、これまでの「職業分類」に、ニュービジネスの分野、非営利活動法人、県人会、納税協会、

女性団体などを加えて、勧誘対象を広げること必要です。「そうだ、こんな人を見落としていた」ということがあるはずですし、ロータリアンとしてふさわしい人が見つかるに違いありません。

このような地区会員増強委員会の方針・方策を、地区のブロック会議や、各クラブ例会での地区委員のスピーチなどを通じて訴え、ご理解とご協力をお願いしてきました。



岩佐氏 会員増強というものは、新入会員を新しく迎えることと、退会される方を防止する二つの方法があります。平井委員長さん如何でしょうか。

平井氏 初めて地区に設けられた委員会です。大久保さんがおっしゃったように、10年後には半分にならないように、我々の責務があります。いやになった人を止めることは大変難しいものです。入会時にロータリー情報をしっかり話していただいて、ロータリーは素晴らしいものであるということを確認していただいているのですが、情報委員会と、もっと密接な関係を持つべきだと思う。入会時に、きちりとオリエンテーションをやる。ロータリーの良さを教育、PRする。それを受けて、我々は3年4年とその気持ちを持ち、ロータリーライフを楽しんでもらうように努める。日々仲間が仲良くし、お互いに勉強していかなければならないのではないかと。情報委員会と、連携プレーをすることが大切だと思います。

西村ガバナー 大変よい意見だと思います。ロータリーを楽しく、より理解していただく。退会防止と情報委員会の、協力が大変必要だと思います。

世界の会員数は、1997年には1,213,748名がピークで、それから年々減少し、今年度は

1,180,550となっています。このことは経済不況とかたづけていますが、何か原因があるのではないかとされています。

平井氏 ロータリーの良さというのに、ロータリーの十徳というのがあります。私達も十徳を聞かされ、今日迄きた訳です。



4人のメンバーから始まり、120万人の会員、100年も続く素晴らしい団体です。しかし減ってきたことは間違いない現象です。

仲間と信頼関係をしっかりと持って、ロータリーライフをする。世界の人々と仲良くできる。このような団体は、他にはない。またそのような機会もない。色々な立派な方々と気楽におつきあいできる。こんな特性も良い。世の中に素晴らしい奉仕ができる。素晴らしい機会が与えられている。この機会が私達の責務である。これを感じたら、やめると言うことは言えないのが本当ではないか。しかし、あえてやめたい人がある。退会すると、なかなか戻りにくい。しかし休会ならばすぐに戻れる。さあ戻りましょう、と。ロータリーには休会制度がない。一度、規定審議会議に提案してもらってはどうか。なかなかOKがでない所ですが、休会と言っても期間を決めて、負担すべき分担金は払っていただく。3年間ぐらいの休会制度があれば、ロータリー精神は忘れておられないし、もう一度素晴らしい精神を発揮してもらえるのではないか。私達が心から活動しやすい場をつくるのも大切である。退会は本人一人の意志で決まる。しかしやめた人が、やめなければよかったなあ、後悔されるクラブづくり、運営もしなければならぬと思います。是非、規定審議会議でアピールしていただきたい。休会制度を提案したいと思います。

西村ガバナー 委員長をお願いした時から、休会制度を提案しておられます。私もその通りだと思います。現在、手続要覧にも、理事会決議にも載っていないので、賛同してもなかなか実施することは難しいことだと思います。

大久保氏 一つ提案したいことがあるのですが...

会員の動向や声を集約するために、ガバナー月信にアンケート用紙をつけていただけたらと思うのです。会員の声を吸収することは、

ロータリー活動の強化につながり、退会防止にもつながると思いますので、工夫していただくことをお願いします。

西村ガバナー 退会防止をすることは、クラブの活性化につながり、退会の少ないクラブは楽しいクラブではないかと思えます。

岩佐氏 拡大は地区に新しい風を吹き込んでくれ、会員増強のもっとも大事な活動だと考えます。拡大のベテラン、吾郷委員長、如何ですか。

吾郷氏 拡大というのは、可能性の低い大変な委員会です。平井さんが創られたモーニング以来、創立されていません。今の時代、どなたがやられても本当に難しいものだと思います。

昼の例会に出席できない人。仕事が忙しく昼はどうもと言う人。そのような方々のために、朝、夜の例会を創るために力を入れたいと思っています。拡大を担当さ

せていただいて3年目になります。今迄のような方法でのやり方では難しい。街と言いますか、都市に一つクラブを創りたいと思っています。



西村ガバナー 可能性のない所に、駄目だという気持ちでぶつかっては、何もできないと思います。拡大するんだという意識をもって歩むことが、大事ではないかと思えます。大変難しい時代に、難しい活動をお願いしまして、吾郷さんでなければできないことだと期待しております。

平井氏 拡大は難しいですよ。だけど拡大はやらなければならない。私は以前からクラブの増強よりも、拡大を優先すべきだと言ってきた一人です。大クラブになるよりも拮抗したクラブの方が、数多く地域社会にロータリー精神を発揮できるのではないかと思えます。拡大は口で叫んでいるより、足を運ぶ。仲間にも声を掛ける。会長、幹事さんにも声を掛ける。同じ業種の皆さんにも。モーニングを創立した時、京都市内全域をテリトリーにしていた。情報を得ながら動く。親しいロータリアンにお願いする。必ず達成できると思えますよ。京都に一つできたのですから、奈良に一つ、福井に、滋賀県にも創って欲しい。増強も大事ですが、私は拡大を期待しています。

吾郷氏 私もいつの間にか、拡大の吾郷、ベテランの拡大委員と言われるようになりました。

構造改革ではないが、これ迄のやり方ではなく、平井さんがおっしゃったように、アンテナを広げて、情報をかき集め、是非クラブを創りたいと思っています。入会した会員が退会しないような、楽しい居場所のある、魅力あるクラブを目指したいものです。

岩佐氏 前々年度のR.I.会長レイシー

ーさんは一回退会を決意され、R.I.会長にまでなられたんです。どうしたのですかと、平井さんは聞かれたそうです。レイシー会長は自分の居場所がなかったというお話でした。



ガバナーも、平井さんもおっしゃってられます。楽しいクラブ、居場所のあるやりがいのあるクラブを運営していただくことが重要ではないかと思えます。

大久保さんは、女性問題に力を入れてやっていただけそうですので期待しています。

吾郷さんには、モーニング、夜間クラブと充分種を蒔いていただいておりますので、刈り取っていただく時期だと思っております。

西村ガバナー ロータリー活動が感動的なものでなければならぬし、地域内でロータリーのイメージを強化することも、大事ではないかと思えます。

ロータリーバッジを見て、一般の人はどう思うか。どう答えてくれるか。ロータリーというのは、奉仕を心ざす人の団体なんだと、奉仕することに自分の喜びを感じず。そういう団体だと思っただけならば、増強、拡大、退会防止などのことを、真剣に話し合う必要もないかもしれません。ロータリーのイメージをアップすること、広報の役割も重要ではないかと思えます。

大久保氏 会員増強活動にとって、情報委員会や広報委員会の役目も大切です。

クラブや会員個人の質と言いますか、イメージあるいはブランドと言いますか、そうしたものの向上、強化が必要だと思います。そのために、クラブの人道的な奉仕活動や地域での奉仕活動の取組み、また、今後の奉仕活動の予定などは、あらゆる機会に、いろんな方法で、会員はもちろん広く地域社会に広報することが大事です。より多くの人にロータリーの活動を知ってもらうことが、ロータリーや

会員個人のブランド力を高め、引いてはそれが会員増強につながるのではないのでしょうか。

平井氏 入会される時に、ロータリー情報をしっかりおやりいただくこと。入会されたら暖かく仲間としておつきあいをすること。それが毎日の生活のなかに取組み、ロータリーが毎日の生活のなかに入っていくことが、大切だと思います。

素晴らしい感動ある奉仕活動に、各クラブが全力投球する。感動を分かちあえるということによって、退会も少なくなるのではないかと思う。退会防止は、一人一人の意志で決まります。そう簡単に決断せず、暫く冷却期間をおけるような制度をつくりながら、もう一度迎えられるような型をとるということが、一番良いのではないかと思えます。

いつ迄も、心の通う仲間でありたい。地球上のあらゆる人達が、あなたを必要としていることを知らせることが大切です。

西村ガバナー 地区に初めての退会防止委員会を設置し、平井委員長にお願いしまして成功したと思っております。

大久保氏 会員増強は、くり返しくり返し叫ぶということが非常に大事だと思います。

会員増強の意義を、一人一人積極的に理解していただきたい。新会員一人推薦という、キャンペーンに取組みたいと思えます。

西村ガバナー 会員増強は何故必要なのかということ、皆さんに知らしめることも大事ではないかと思えます。

吾郷氏 今年度は、各県に一つクラブを創ること。朝のクラブですけど、委員会で決議しました。

夢と勇気、誰よりも持っております。頑張らねばと思っております。

岩佐氏 皆さんお忙しい方々にお集まりいただき、意義あるご意見を、前向きなお話しを頂戴しまして有難うございました。

2650地区が、必ず光り輝く地区となることと確信しました。会員の皆さん方の、一人一人の意識を喚起していただきたいと思えます。有難うございました。



- 広報活動はいかに -

広報・雑誌合同委員長会議

地区広報・雑誌委員会 委員長 伊藤 哲雄 (京都洛西RC)

年度開始早々の七夕の日(土)池坊こころホール(京都市)において、地区内91クラブから広報・雑誌委員長約120名の参加を得て、広報・雑誌合同委員長会議を開催した。

国際的レベルで、会員減少の危機に直面しているロータリーにとって、いかにロータリーの奉仕活動を正しく一般社会に知ってもらうか、そして関心を惹きつけるか、そのために有効な対外広報活動をいかに展開するか。また会員相互の親睦を図る手段として、対内広報をどう運用すればよいか。さらに公式地域雑誌「ロータリーの友」の活用事例等々、多岐にわたる問題をテーマに取り上げた。

講師には ロータリーの友事務所、写真編集主任 二神典子氏、産経新聞社総合企画室ウェブ産経推進本部事務局長 大船一美氏、今年度新たにロータリーの友委員会顧問に就任された山崎時雄直前ガバナーをお招きし、地区クラブ奉仕担当諮問委員 津田佐兵衛パストガバナーのリードで3時間にわたる研修会議を終えた。



文庫通信 新世代のために

- 「インタラクットの翼に寄せて 第23回海外交歓研修旅行」 2000 42頁 (D.2830)
- 「INTERACT CLUB 27-活動報告書」 岡崎城西高校IAC 2001 63頁
- 「相手を理解すること コミュニケーションとは何か」
高瀬 昭治 2000 9頁 (D.2670・
D.2680第22回RYLAセミナー報告)
- 「世界の未来に私達は、そして皆さんは...。」 今井 鎮雄 2000 24頁 (D.2670・
D.2680第22回RYLAセミナー報告)
- 「日本人の心 - その拡大志向と縮小志向 - 」 小笠原隆元 2000 13頁 (D.2600第12回RYLA報告書)
- 「アジアそして世界への翼を広げよう」 周 琪 2000 5頁 (D.2650未来にはばたく若人の集い報告書)
- 「人と心と相撲」 長岡 未広 2000 5頁 (D.2650未来にはばたく若人の集い報告書)
- 「津波が変えた私の人生」 道下 俊一 2000 15頁 (D.2500第21回RYLAセミナー報告書)
- 「危機管理(災害時)について」 野村 誠也 2000 9頁 (D.2500第21回RYLAセミナー報告書)

[申込先：ロータリー文庫]

〒105-0011
東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7階 TEL (03) 3433-6456・FAX (03) 3459-7506
<http://www.rotary-bunko.gr.jp>

- 新世代の人々に入会を -**会員増強・退会防止セミナー**新世代メンバーシップタスクフォースコーディネーター **浅見 直幹** (京都北RC)

新世代の方々にロータリーを正しく理解してもらい、興味をもってもらい、入会していただくお手伝いができないか、ということを探るポジションで、日本には、私の他4名の方がおられます。

8月11日(土)ぱ・る・るプラザ京都に於て開催されました「会員増強・退会防止セミナー」に参加して、宮崎コーディネーターの御講演を拝聴し、とても勉強になりました。そののち各委員長の御意見をうかがい、私も少しお話をさせていただきました。

近頃ロータリアンの中で、危機感とか曲がり角などの言葉をよく耳にします。それは各クラブで受けとめ方が色々あるにしろ、大きくは会員増強がうまく進まず、会員数が減少している。一人一人の人的負担が増加し、それが社会的先行不安と合致し、ロータリーの危機が感じられるのではないのでしょうか。どこのクラブでも、「会員増強」の大連呼になっているのが現状のような気がします。もうひとつの「曲がり角」とはどうでしょうか。当地区を振り返ってみると、拡大しつづけたことによって、大変多くのクラブができました。そして数多くのロータリアンが誕生しました。全国の数値をみましても、行政区人口あたりロータリアンの数値を算出しますと、他県の倍のロータリアンが誕生していることになりま。ロータリーの理念に興味を持つ前に、入会されている方も増加しているように思われます。その結果「退会防止」委員会が必要になってしまったのではないのでしょうか。

京都市を例にとれば、月曜日から金曜日の5クラブに統合し、会員数を200人に想定いたしましても、全国平均よりは上回っております。地域に密着した活動は可能だと思われま。職業分類を基にシニアになられたら正会員を推薦する、ロータリーに正しい興味をもたれた新世代の方々は、アディショナルに推薦する、常々情報委員会が正しい情報を提供する、過度な拡大に方向修正を加え、今迄通りあたりまえのことをあたりまえの様に
 行うことでこの危機感から解放されるはずで。最後に会員増強とは、素晴らしいロータリーの理念を御自身が共にわかちあいたい方に理解していただき、共にロータリーライフを楽しむためのものであり、決して人的負担の軽減やクラブ会員数の維持のためにおこなわれるものではないということを再確認して頂きます。

**参加しよう****インターシティ・ミーティング第2組・京都北部****テーマ：歯車**

日 時：9月29日(土) 12:00～18:00 会 場：サンプラザ万助
 ホストクラブ：福知山西南RC 会長 土佐征英 実行委員長：塩見和俊
 ゼネラルリーダー：山田三郎パストガバナー
 参加クラブ：綾部、福知山、福知山西南、舞鶴、舞鶴東、峰山、宮津(7RC)

インターシティ・ミーティング第4組・奈良
テーマ：地域社会内でのロータリーイメージ強化

日 時：10月13日(土) 12:00～18:00 会 場：奈良県広域地場産業振興センター
 ホストクラブ：大和高田RC 会長 池内博彦 実行委員長：中井 博
 ゼネラルリーダー：中野重宏パストガバナー
 参加クラブ：五條、平城、生駒、橿原、橿原中央、奈良、奈良東、奈良西、奈良大宮、王寺、桜井、大和郡山、大和高田(13RC)

- 青少年の模範に -

第1回地区 青少年委員長会議

地区青少年委員会 委員長 森定 秀夫 (京都西北RC)

7月14日(土)ホテル京阪京都に於て、91クラブの青少年委員長をはじめ、西村ガバナー、長崎ローターアクト委員長、竹内インターアクト副委員長、小林地区副幹事長、片岡青少年担当幹事、西村青少年担当副幹事の出席のもと、開催された。

本会議は『新世代のための会議』開催のための手引として、新世代のためのプログラムがいかに重要であるかを認識し、各ロータークラブが過去に実施した事例を参考に、今年度の活動方針の参考とするものである。

RYLAビデオを放映後、前年度の新世代のための会議実施事例として、屋外型活動の王子と鯖江北の両ロータークラブ、屋内型活動の京都洛南と高島の両ロータークラブが事例発表し、10班に分かれて60分間のグループディスカッションに入り、熱心に討論。その後、順次討論の集約を発表していただき、新世代との対話がいかに大切かという前向きな意見が多数発表された。

本年度は全ロータークラブが、新世代のための会議を開催していただきたい。決して大きなお金をかけなくても、地域の独自性に根ざした継続的な活動が、次世代を担う新世代の青少年に必要であると思います。

新世代のための月間スローガン、「各ロータリアンは青少年の模範」を各人がかみしめ、青少年委員長さんを中心に行動を起こしていただきたいと思います。



インターアクトの活動を活発に

IAC会長・幹事研修会

地区インターアクト委員会 副委員長 竹内弘太郎 (京都洛中RC)

第2650地区内のインターアクトクラブの活動を担う、各クラブ会長と幹事、顧問の先生、各クラブをサポートする提唱ロータークラブのインターアクト委員長、地区役員が参加して、6月9日、本願寺間法会館に於いて開催されました。

研修会の司会は、2000~2001年度地区代表校の平安IAC会長の石田頼仁君が務め、総参加者85名。提唱クラブである京都洛中RCの協力も得て、順調に進行することができました。西村ガバナーをお迎えし、今年度重要テーマである、青少年育成に関して御挨拶を頂きました。

今回の研修会は、平安IACの意見で、形式的な部分はできるだけ省き、内容の有る充実した会になるように、雀部俊彦地区インターアクト委員長による地区年間活動計画説明と、インターアクターがグループに分かれての分科会、顧問の先生方とロータリアンとの協議会から構成されました。

特にアクターの分科会は、“IACの活動を活発にするためには”を共通テーマに掲げて、3グループに分かれて様々な面から活発な議論が行なわれました。このテーマは、アクターの数も減少傾向にあり、休部するクラブも出てきている現状に、解決策を見出そうとしているローターの側からも大いに関心があります。

分科会の終了後、各グループの代表者が各々結果発表をされましたが、もう一度、奉仕ということを見直す必要があり、何かをしてあげると言う考えではなく、対等の立場で、共に協力して行動することにより共通の喜びを得る、このことが奉仕活動において大切であるという点を、各々の立場からまとめられていました。内容のある充実した研修会であったと思います。遠方から参加したインターアクター同志が、久しぶりの再会に喜びの表情で、議事の合間に語り合うほほえましい姿に、インターアクト活動を通じて彼ら自身も成長している様子を感じることができました。



クラブだより

模 擬 面 接

福井南RC ロータリー情報委員会
田 中 文 夫

毎年行われている「福井商業高等学校の模擬面接」が、7月23日・24日行われた。

県内企業において採用・面接に携わっている福井南ロータリークラブの会員18名が、二日間の両日に亘って面接担当官としてあたった。福井商業高等学校の生徒100数名の就職希望者が、本番さながらの緊張の面持ちで臨んでいました。生徒達にはよい経験になったと思います。



第 5 回福井県下RC軟式野球大会

鯖江RC 高 田 達 郎

6月10日(日)曇り空の下で、第5回福井県RC野球大会が鯖江市中央中学グラウンドで開催された。常連の武生RCが休場し、敦賀・三国・鯖江RCにてリーグ戦を行い、その後神明苑(鯖江市)で懇親会が行われ、1年1回の旧交を温めながら、野球談義で大いに盛り上がりました。

第1試合	鯖江	6	3	敦賀
第2試合	鯖江	8	7	三国
第3試合	敦賀	11	2	三国
個人賞	最優秀選手	坂本義昭(敦賀)		
	優 秀 選 手	山田幸雄(鯖江)		
		原田芳孝(敦賀)		
		石谷清治(三国)		

鯖江RC野球同好会は、ユニホームを新調し、15名をもって今年はスタート致しました。監督も高田から松田選手に引き継がれ、親睦を第一として楽しんでいきたいと考えています。



「ロータリー友情交換プログラム」参加者募集

地区国際交流委員会 委員長 田中文夫(福井南RC)

「ロータリー友情交換プログラム」とは、ロータリアンとその家族のための交換プログラムです。このプログラムに参加することにより、ロータリアンは自己の視野を広げると共に、国際理解を推進するための個人的貢献のチャンスを与えられます。

本年度は、R.I.第7350地区(USAペンシルヴァニア州)と友情交換をすることになりました。御夫婦では是非御参加くださいまして、国際交流を図りつつ親睦を深めていただきたく御案内申し上げます。

記

期 間：2002年6月1日から1週間の予定

旅 費：航空運賃自己負担。ペンシルヴァニア州での宿泊、交通費は第7350地区がお世話いたします。

募集期間：2001年9月15日～10月15日

応募方法：所定の書類を請求の上、記入し、募集期間内にガバナー事務所へ郵送して下さい。

ガバナー表敬訪問

2001年7月12日(木) 福井ロータリークラブ



会長 宇野良二・幹事 岩下春幸

宮崎茂和パストガバナー、宇野会長、岩下幹事を始め多くの皆様の心暖まる歓迎を受け和やかな中で会長幹事懇談会。例会、協議会とスムーズに進行し宇野会長の拡大方針に強い感銘を受け公式訪問を終えることができました。

(阿閉嘉美 記)

2001年7月13日(金) 八日市ロータリークラブ



会長 小島 修・幹事 田中 亨

二橋貞雄パストガバナー始め、小島会長、田中幹事他、大勢の会員の出迎えを受けビックリ！！ 会長幹事懇談会、例会アッセンブリーと活力のあるクラブ会員の皆様との交流ができ、有意義な公式訪問となり、ありがとうございました。

(阿閉嘉美 記)

2001年7月16日(月) 京都西ロータリークラブ



会長 石原義正・幹事 今西孝裕

足立、津田両ガバナーを出された京都市内の有力クラブ。津田パストガバナーの懇切なご指導のもと、優れたクラブ運営をされており、石原会長のもと若手とベテラン会員の歯車がかみ合っ

て素晴らしい事業展開が期待されます。

(小林哲夫 記)

2001年7月17日(火) 舞鶴ロータリークラブ



会長 森津徳夫・幹事 小幡俊一

森津会長の、時代に即応した強力な指導力のもと、簡素ななかにも充実した組織の運営や地域に密着した事業活動の報告等、次年度50周年の節目を迎えられる、伝統あるクラブとしての誇りや格式をヒシヒシと感じました。

(千振和雄 記)

2001年7月18日(水) 近江八幡ロータリークラブ



会長 松村善作・幹事 谷口 弘

毎例会時前、11:00よりダイアナクラブを開設。ロータリー談義等をされ、歴史と伝統あるクラブ内での新旧会員の融和を計られ、その成果として、独自の奨学会の運営をされる等、青少年の育成に力を入れておられる素晴らしいクラブでした。

(田中俊介 記)

ガバナー表敬訪問

2001年7月19日(木) 奈良ロータリークラブ



会長 松井重憲・幹事 吉田彰男

今まで、4人のガバナーを生み出し、また来期岡村ガバナーを擁立される地区内有力クラブ。さすがに安定した模範的なクラブ運営と感心しました。3月の創立50周年事業へ向け、友愛会館の建設を中心に着々と準備が進められています。
(小林哲夫 記)

2001年7月23日(月) 長浜ロータリークラブ



会長 松居良蔵・幹事 福永泰三

過去財津ガバナーを擁立され、前年度創立50周年を祝われた伝統あるクラブ。流石活動実績も立派な内容でした。松居会長を中心に、新しい150年へ向け出立される意気を感じました。若い会員の獲得当面の急務です。
(小林哲夫 記)

2001年7月24日(火) 武生ロータリークラブ



会長 中西真一郎・幹事 佐々木忠彦

中西会長の「愉快に楽しく元気よく」をそのままに会長幹事懇談会、例会、クラブ協議会と和気あいあいと進み、全ての面で見習う処が多いクラブの印象を受け、故林一彦パストガバナーの遺徳を忍びつつ、武生ロータリークラブを後にいたしました。
(阿閉嘉美 記)

2001年7月25日(水) 敦賀ロータリークラブ



会長 刀根荘兵衛・幹事 中村紀明

JR敦賀駅に会長、副会長、幹事のお出迎えを受けた。会長のご自宅で会長幹事会を行い、気比神宮を参拝し例会会場へ。例会終了後、全員で記念写真を撮影。協議会は若い会長ですがスムーズに進行されクラブの発展を確認できました。
(前川清昭 記)

2001年7月26日(木) 福知山ロータリークラブ



会長 松山 均・幹事 福島慶太

1953年4月9日に創立された伝統ある格式高いクラブ。1ヶ月ごとの例会席のチェンジャや、例会前の親睦をはかるワイン席など工夫が見られた。一方環境保全の取組みとして、法川探偵団(法川の掃除と水辺の自然観察会)の開催など積極的に取組まれています。
(辻 建而 記)

ガバナー表敬訪問

2001年7月27日(金) 鯖江ロータリークラブ



会長 斉藤 孝・幹事 園 幸雄

「楽しいクラブづくりを！」との斉藤孝会長方針のもと、和気藹々の本音で語れるクラブでした。会員減少という厳しい状況の中で「限られた予算で最大の効果を」との園幹事の決意。本年度5名の会員増をよろしく！

(千振和雄 記)

2001年7月31日(火) 宮津ロータリークラブ



会長 今林洋治郎・幹事 日下部雅一

月末の訪問にもかかわらず、今林会長、日下部幹事はじめ多数の皆様の歓迎を受け、西村ガバナーも感激。例会、協議会の充実した内容には敬服。益々のクラブの発展が期待されるものと思います。

(阿閉嘉美 記)

2001年8月1日(水) 福井北ロータリークラブ



会長 福島克治・幹事 安間保行

例会場前にドリンクコーナー。なごやかに会員同士が懇談。新入会員アドバイザーを設けパスト会長3名が担当され、ユニークな活動を企画。姉妹クラブ提携先のフラトンサウスRCと青少年交換プログラムを実施され、本年も7月に6名の受け入れをして活発に活動されていた点が印象的であった。

(辻 建而 記)

2001年8月2日(木) 舞鶴東ロータリークラブ



会長 玉林久人・幹事 山元 勉

会長、幹事懇談会後の例会で西村二郎ガバナーのアドレスが行われた。クラブ協議会では各委員長より活動報告があり、西村ガバナーより地区大会は「是非徒歩で参加下さい」には、緊張の中に笑顔がこぼれた。

(片岡宏二 記)

2001年8月3日(金) 綾部ロータリークラブ



会長 梅垣良佐久・幹事 村上博孝

梅垣会長は女性会員の入会を検討中とのこと。経費削減のために会報のパソコン化を推進中。海外出張の多い会長を支えるのは、村上幹事と2名の副会長。例会では3名の新入会員に西村ガバナーがバッジをつけられました。

(千振和雄 記)

未来への発信

肩をたたきあう交流・共感を

- 無機質な機械のなかで -



京都モーニングRC 林 治材

私は現在38歳、京都モーニングロータリークラブ創立以来2年間、最年少会員という地位をいただいて参りましたが、先頃1歳年下の会員が入会され、この地位を譲ることとなりました。

私の年齢、ちょうど人生の折り返し点に来たという感ではありますが、この期に、ロータリーの精神にふれる機会があったということは、大変大きな意義があると感謝しております。残る人生を、奉仕のために費やすことが、周囲の方々への恩返しになるかと、ロータリー活動を通じて感じる次第であります。

ロータリーの根底を流れる奉仕の精神は、創立以来揺るぎのないものですが、それを具現化する方法は、時代によって違ってくるかと思えます。これからは、ITを駆使した視野の広い活動が盛んに行われ、地区内の、あるいは日本中、世界中のロータリアンが、インターネットでいつでも自由に意見を交換し合い、そこから新しい創造が生まれれば面白いのではないのでしょうか。

しかし一方で、我々が生身の人間である以上、間に無機質な機械が入れば入るほど、お互いが直接面と向かって肩をたたき合う交流、共感を持ちながら友情と理解を深めていくことが、ロータリーの原点につながる、恒久の使命ではないかと感じています。

今後とも先輩諸氏に導いて頂くとともに、我々の年代の者が主体性を持って、ロータリーを客観的に価値判断する力を、養っていかなくてはならないと愚考しております。

ロータリーに対する思い



水口ローターアクトクラブ 会長 森田 哲司

水口ローターアクトクラブが創立されてから早くも5ヵ月近くになります。同時に私達メンバー全員がアクト歴5ヵ月ということです。

それぞれが、いろんな思いでこのクラブに入会していることでしょう。私はあるロータリアンの熱い推薦で入会しました。

ロータリークラブについては全く知りませんでした。約5ヵ月ローターアクト会長としてロータリークラブに触れ、実際に活動していく中で、「義理」「友情」「責任感」、この3つがうまくバランスをとってこそ、成り立つ組織だと分かりました。1人では不可能なことも、成功させることが可能な組織だと思います。そして、その成功の喜びは一味ちがうものでした。様々な新しいできごとや人と出会い、いつまでもこのバランスを保ち、一味ちがう喜びを、もっともっと味わえるようになりたいと思います。

皆様と共に楽しみ、人としてどうあるべきか悟り、壮大な躍進を達成するまで、とことんいろいろなことに関心を持ち、そして一つ一つ納得のいくまで追求していく所存です。皆さんと一緒にがんばりたい！と願っています。

私達が新しい世紀をしっかりと担えるよう、ロータリアンの皆様のご指導をお願いしたいと思います。

ク ラ ブ 自 慢

クラブ自慢？

前野 芳子（京都洛西RC）

我が京都洛西ロータリークラブのクラブ自慢は、「美人（??? もちろん私たち女性会員のことで）が3人いること！」です。

なんて言ったらクラブ全員が「それって誰?」「どこに?」ってキョロキョロして、一瞬ののち「ウソつけ!」って、きっと大爆笑になってしまうに違いありません。私たちのクラブは、そんな気取らない仲間の集まりなのです。派閥のようなグループ意識や、堅苦しい序列のようなものが感じられない、自由な雰囲気が出た私たちのクラブの一番の自慢になるのかも知れないという気がします。

でも、1999年から2000年度には、大日方ガバナーを輩出し、皆様のご協力やご指導のお助けをいただきながらではありますが、総勢70人程度の人数で、地区事務所の運営や、地区大会のホストなんかもワーワー言いながらやってしまうクラブでもあります。常々はなんとなくのんびりして、「ロータリー命」って感じでもないのに、また決定するまでは喧々譁々したりしているのに、動き出したら結構みんなでがんばってしまう、そんなクラブのようです。普段の肩肘はらないクラブ生活が、この“いざっ”というときの力の源なのかもしれません。

最近は毎月1度（原則として第2例会日）、茶道同好会が主になって例会前に呈茶もさせていただいています。メーキャップには是非京都洛西ロータリークラブにおいでください。



人の人たるべき道 心学 石田梅岩先生の教え

小林 正和（亀岡RC）

緑豊かで清い水が流れ、田園と街が調和のとれた、美しい町亀岡に、我が「亀岡ロータリークラブ」があります。1970年に誕生して、30年が過ぎました。

昨年5月の創立30周年記念。亀岡に誕生し、多くの人々に偉大な影響をもたらした、亀岡市民にとって誇りである「心学」石田梅岩先生。その教えに造詣の深い郷土史家、福知正温先生に講演をいただきました。

教えの心髄は“人の人たるべき道であり守るべきモラルである。”を学びました。ロータリークラブにおける“奉仕の心”と相通じるところが多いことを改めて感じました。

これと同時に、亀岡市生涯学習の拠点『ガレリアかめおか』の石田梅岩先生顕著展示会場に、等身大の木像を寄贈いたしました。

心の教育の叫ばれている今こそ、梅岩先生の「心学」を……の思いを込めて。

次に創立30周年記念として、当時の会長・大庭圭介氏の作詩による“亀岡ロータリークラブの歌”ができました。

恵みはぐくむ 緑の大地
清くたゆまぬ 流れる水に
我が身を映して 輝ける
奉仕の望み 限りなく
友よ集いし 亀岡ロータリー



2001～2002年度 クラブ事務局メールアドレス一覧表 地区インターネット委員会

奈良地区			京都地区		
1	五條	gojorc@gojo.felix.or.jp	47	舞鶴	mai-rc@violin.ocn.ne.jp
2	平城	-	48	舞鶴	mai-erc@smile.ocn.ne.jp
3	生駒	-	49	峰山	mineyama-rc@mx.ncansai.ne.jp
4	橿原	krc@jeans.ocn.ne.jp	50	宮津	miyazurc@fine.ocn.ne.jp
5	橿原中央	kachuo@sweet.ocn.ne.jp	51	園部	-
6	奈良	naraclub@smile.ocn.ne.jp	52	宇治	-
7	奈良東	naraeast@kcn.ne.jp	53	宇治鳳凰	-
8	奈良西	-	滋賀地区		
9	奈良大宮	akiko-ma@mue.biglobe.ne.jp	54	びわ湖八幡	biwako8-rc@ex.biwa.ne.jp
10	王寺	rotary1@skyblue.ocn.ne.jp	55	五個荘能登川	gono-rc@ex.biwa.ne.jp
11	桜井	sakurarc@begin.or.jp	56	彦根	hikonerc@topaz.ocn.ne.jp
12	大和郡山	-	57	彦根南	minamirc@oregano.ocn.ne.jp
13	大和高田	ytrotary@abelia.ocn.ne.jp	58	甲西石部	kirotary@mx.biwa.ne.jp
京都地区			59	草津	k-rotary@sirius.ocn.ne.jp
14	綾部	arc@mx.ncansai.ne.jp	60	水口	m-rotary@aiores.ocn.ne.jp
15	福知山	fkchi-rc@minos.ocn.ne.jp	61	守山	mori-rc@mx.biwa.ne.jp
16	福知山西南	snr265@crux.ocn.ne.jp	62	長浜	-
17	亀岡	kameoka@orb.ne.jp	63	長浜東	n1110@ex.biwa.ne.jp
18	亀岡中央	-	64	大津	otsu-rc@titan.ocn.ne.jp
19	京都	-	65	大津中央	oc-net@vesta.ocn.ne.jp
20	京都伏見	fusimirc@mbox.kyoto-inet.or.jp	66	大津東	rc-otsue@mx.biwa.ne.jp
21	京都東	rc-ke@fancy.ocn.ne.jp	67	大津唐橋	karahasi@ex.biwa.ne.jp
22	京都北東	r2650kne@zms.or.jp	68	大津西	otsu-w@siren.ocn.ne.jp
23	京都城陽	-	69	近江八幡	omrc@gold.ocn.ne.jp
24	京都桂川	-	70	滋賀湖北	s-kohoku@smile.ocn.ne.jp
25	京都北	kita-rc@mbox.kyoto-inet.or.jp	71	高島	taka-rc@ex.biwa.ne.jp
26	京都南	rcks@gold.ocn.ne.jp	72	栗東	ritto-rc@ex.biwa.ne.jp
27	京都モーニング	kmrc-ofc@mbox.kyoto-inet.or.jp	73	野洲	yasu-rc@mediawars.ne.jp
28	京都紫野	-	74	八日市	rotary@po.bcpc.co.jp
29	京都中	rotary@meix-net.or.jp	75	八日市南	-
30	京都西	kwrc@helen.ocn.ne.jp	福井地区		
31	京都西山	kyotonishiyama-rc@h8.dion.ne.jp	76	福井	fukuirc@sky.hokuriku.ne.jp
32	京都乙訓	otoku-rc@mail.joho-kyoto.or.jp	77	福井東	ferc2650@ruby.ocn.ne.jp
33	京都洛中	rakuch@lime.ocn.ne.jp	78	福井北	kita@vcnet.fukui.fukui.jp
34	京都洛北	rakuhoku@orb.ne.jp	79	福井南	fukuiminami-rc@p2422.nsk..ne.jp
35	京都洛南	rakunan@mbox.kyoto-inet.or.jp	80	福井西	nishi-r@vcnet.fukui.fukui.jp
36	京都洛西	raku_sai@mbox.kyoto-inet.or.jp	81	福井フェニックス	phoenix@ruby.ocn.ne.jp
37	京都洛東	rakutorc@mbox.kyoto-inet.or.jp	82	勝山	-
38	京都嵯峨野	saganorc@mbox.kyoto-inet.or.jp	83	丸岡	-
39	京都西北	seihoku@mbox.kyoto-inet.or.jp	84	三国	-
40	京都西南	seinanrc@silver.ocn.ne.jp	85	大野	-
41	京都紫竹	shichiku@hkg.odn.ne.jp	86	鯖江	sabarota@mitene.or.jp
42	京都朱雀	suzakurc@mbox.kyoto-inet.or.jp	87	鯖江北	-
43	京都田辺	kyototanaberc@par.odn.ne.jp	88	武生	takefurc@sky.hokuriku.ne.jp
44	京都山科	yrckyo@sa2.so-net.ne.jp	89	武生府中	-
45	京都山城	office@kyoto-yamashiro-rc.com	90	敦賀	t-rotary@juno.ocn.ne.jp
46	京都八幡	office@ky-rc.com	91	若狭	wakasarc@land.hokuriku.ne.jp

2001～2002年度 各委員会メールアドレス表 地区インターネット委員会

	委員会名	emailアドレス	転送先
1	規定審議委員会	lgsl@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所
2	会員増強委員会	mdvp@rid2650.gr.jp	大久保委員長
3	退会防止委員会	mrtm@rid2650.gr.jp	平井委員長
4	広報・雑誌委員会	prl@rid2650.gr.jp	伊藤委員長
5	ロータリー情報委員会	rinf@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所
6	職業奉仕委員会	vocv@rid2650.gr.jp	黒川委員長
7	社会奉仕委員会	comm@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所
8	環境保全委員会	env@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所
9	国際交流委員会	exch@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所
10	国際青少年交換委員会	yep@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所分室
11	G.S.E.委員会	gse@rid2650.gr.jp	佐野委員長
12	世界社会奉仕委員会	wcs@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所
13	インターネット委員会	inet@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所分室
14	青少年委員会	yuth@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所
15	ローターアクト委員会	ract@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所
16	インターアクト委員会	iact@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所
17	財団奨学金・財団学友委員会	scha@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所分室
18	財団増進委員会	fdvp@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所分室
19	米山奨学委員会	yone@rid2650.gr.jp	ガバナー事務所分室
20	拡大委員会	extn@rid2650.gr.jp	吾郷委員長